

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に添ったサービスを目指し努力すると共に笑顔で接するよう努めている	「やさしいまなざし、手のぬくもり、心のやすらぎ、地域・家族の支え合い」という理念があり、職員は自分の言葉に置き換え理念を理解しケアに当たっている。利用者の子ども世代の職員もいて、全職員が1日1回は利用者が笑顔になれるように話しかけている。出勤時に理念を見て「よし！」と気分を引き締め仕事に就く職員もいる。平成26年に新しい職員の入職があったこともあり定例会で取り上げ周知していきたいとの意向がある。	職員は毎日のケアで利用者のペースに合わせて笑顔を引き出しているが、改めてホームの理念について説明や話し合いの場を持ち更に理解を深められていくことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は毎日散歩をしたり地域に出向きふれあいサロンなどに参加できていたが現在は重度者が多く現実的には難しい	地区の自治会に加入し回覧板が回り地域の情報を得ている。また、毎月行われる清掃活動にも参加している。地区の「ふれあいサロン」への参加者は少なくなってきているが現在数名の方が職員と一緒に参加している。年2回、高校生の初任者研修の受け入れを継続している。節分には自治会の鬼と七福神に扮した役員の方々による豆まきが行われ利用者も楽しみ、食堂の壁にはその時のスナップ写真が貼られていた。7月のホームの夏祭りへの地域からの参加者も徐々に増えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けて情報を発信し協力する旨伝えているが地域の動きがみられない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行い行政、地域の方に報告情報交換はしている	家族代表、民生委員、福祉推進委員、自治会ボランティア、市職員、地域包括支援センター職員で構成され、年6回奇数月に行われている。必要時に交番や消防署の署員にも声を掛けている。経過報告や利用者状況などを報告し、意見やアドバイスなどを頂き運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	折にふれ連絡を取り協力関係をきずいている	市の担当部署とは空き室の相談、ホームの今後に向けての提案・アドバイスをいただくなど良好な関係づくりが出来ている。介護相談員が3~4ヶ月に1度、2名来訪し、利用者と一緒に折り紙や歌を楽しんだり職員の話も聞いている。介護保険の更新申請も家族からの依頼によりホームで行い、調査時には家族とともに計画作成担当者が対応し、利用者の正しい情報を伝えている。市から情報を頂き管理者研修への参加を予定している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間の施錠はしているが身体拘束はしていない	日中、玄関の鍵は掛けていない。身体拘束をしないケアについてのマニュアルも整備されている。具体例を定例会で話す他、現場や朝夕の申し送りで拘束のないケアについて検討を重ねている。布団がベッドよりずり落ちるからと4点柵を家族が希望したときにも「拘束になるから」と説明し、夜間の見回りで解決した。転倒や転落のリスクが高い方には家族とも相談しセンサーマットを使用することがある。	

認知症高齢者グループホーム 梨ノ木荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員を設置し注意を払っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用する方は今のところいない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、出来る限りの説明をし理解を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場に家族の参加もありその場で意見を聴いたり来荘時に話を伺い運営に反映させる様努めている	毎年新年にその年の目標を利用者一人ずつに聞くと、ほぼ全員が「元気で歩きます」、「足を大事に寝こまない」等、一人ひとりから同じような決意が聞かれ、利用者同士の仲が良いことが窺えるという。家族の来訪もまちまちであるが、訪問時には職員も利用者の様子を伝え家族と会話をするように心掛けている。毎月「梨ノ木荘便り」とスナップ写真を家族へ郵送し家族からは日常の生活がよくわかると喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議時に今後の運営方針などについて意見を聴き反映させるよう努めている	朝夕の申し送りの他に月1回スタッフ会議を開催し職員間の意志疎通を図っている。スタッフ会議には休みの職員も必ず出席している。利用者のケアカンファレンスを中心に業務連絡や意見交換を行い、職員の思いもお互い伝え、それぞれの立場を理解するようにしながら協力関係を築いている。今回の外部評価についての自己評価も職員全員にプリントを配布し記入してもらい管理者がまとめるなど、何事にも全員で取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社労士の意見を訊き出来るだけ整備に努め又職員個別に面談し希望ややりがいなどを聴いている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に積極的に参加できるよう勤めている		

認知症高齢者グループホーム梨ノ木荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上田市のグループホーム連絡会の研修や会議などに積極的に参加し他施設の状況などとの意見交換はしている。他施設訪問を誘われてはいるが中々出来ない状況である		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	一番に取り組むべき問題であるのでコミュニケーション不足になり不安な日々を送らないような声かけを常に行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込みの段階から充分家族の話に耳を傾け心配事不安な事が安心して預けていただける様に意識をもって努力している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の希望、家族の希望を聴き双方にとって一番良いと思われる方法を考えていける様努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ立場を意識し敬意の念をもち指示命令にならないよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常日頃家族との連絡を蜜にとり合い共に支え合う関係を築き信頼関係を築くよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知り合いの方が自由に来荘されるよう門戸を開いていると思うような来荘者はいない。これからも努力していく	88歳以上の利用者が6人と利用者の年齢も高いこともあり同じ年代の方の訪問はなかなか難しいが知人の訪問が時々ある。また、電話の取次ぎもしている。お正月やお盆に家に泊りで帰宅される方、一時帰宅して家族でお祝いして戻ってくる方などがいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールの席換えをして話題に入り易いようにしている。またオリエンテーションなどでも話題を提供している		

認知症高齢者グループホーム 梨ノ木荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居された施設・病院へ出来る限り訪問している。またご家族に電話などして現況をお聞きしている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何がしたいか？何を求めているのか？私たちは何をお手伝い出来るのか日々努力している	利用者が自発的に要望などを発することはあまりないが、利用開始時に家族や担当ケアマネジャーからの情報を受け、好きなこと、できることを把握し継続できるようにしている。生まれ育った故郷の話などにふれながら思いや意向を聞くようにしている。利用当初、入浴時にいろいろな個人的な話が出来たが介護度も上がり、現在は安全・安心して入浴ができるように対応が変わってきている。職員が「ありがとう」、「すごいね」の声をかけし利用者を励まし支援するシーンも見られるという		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	折につけ家族と話しどんな生活をして来たのか聴いたり、本人との話の中で聴き取ったりしている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝掃除などで訪室した際の顔色や言葉の様子で其の日の様子が観察されている			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	電話や来荘時に家族と話をしている。また申し送りやケア会議での意見交換を計画の方に反映させている	朝夕の申し送りで利用者の状況を確認するとともに、ケア会議で職員の意見を聞きながら計画作成担当者が定期的に見直し・作成している。職員のやりやすいプランでなく利用者の思いがどこにあるか見極めて作成している。家族の来訪時には利用者も一緒にプランの説明をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録の中には本人の発した言葉を記録し何を求めているのかを把握できる様努め計画の見直しに活かしている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	申し送り、ケア会議を通し其の都度話し合い支援の見直しに取り組んでいる			

認知症高齢者グループホーム梨ノ木荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会のふれあいサロンへの参加を出来る限りつづけている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を取り入れ月1回から2回の往診をお願いして医師・看護師と連携を密にしている。また通院の支援も行っている	平成27年5月、訪問看護の導入にあたり家族会を開き説明し了承をいただいた。以前はそれぞれのかかりつけ医がいたが、利用者が通院困難となり、一人、二人と訪問診療を受ける方が増え、現在大半の方がその形となっている。週1回、訪問看護師も訪れ医師との連携も取れている。今年、春先に風邪を引き肺炎になった利用者がいたがホームで点滴をしたり、入院後にホームに戻るなど、現在は体調も回復している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を取り入れ連携を密にしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は医療機関と情報交換及び相談に努めている。また入院時は面会に行き早期退院できるよう勇気付ける言葉がけに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ほとんどの家族と合意が出来ている。また重度化した際の指針もできている	利用開始時に本人や家族に聞き意思を確認している。自然に任せる方や最後の時は病院にお願いしたい等、現在利用されている方にも色々な希望があるという。訪問診療と訪問看護(24時間対応)になったことから終末期をホームで過ごし、最終病院へという体制が取れるようになってきている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は訪問看護に連絡する。消防署の職員から年に1回訓練を受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の協力は得られていないが消防署の職員から訓練を受けている。また職員同士で話し合い時には訓練もしている	年3回訓練が行われている。そのうち2回は消防署指導により実施し、残りの1回は自主訓練としているが、いずれも2階の利用者を階段を使って1階まで移動させ、職員間の通報訓練も行っている。車いす対応の利用者は1階に居住出来るように配慮している。3日間の食料、生活用品等の備蓄もある。	

認知症高齢者グループホーム梨ノ木荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人その人にあった声がけをするよう充分注意し対応している	利用者の尊厳の保持についてはスタッフ会議で折にふれ話し合っている。苗字にさん付けで呼んでいる。耳の遠い方にはそっと肩に触れてから話したり、書いて伝えることもある。トイレ介助の時などに利用者の恥じらいの表情が見られ、「ごめん」と利用者の気持ちに配慮しながら支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションなどでも本人の希望を聞きながら利用者本人の生活がなされるよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活の中ではなかなか難しい面もあるが出来る限りご本人のペースを尊重するよう努力している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧・衣類などご本人の好みで自由にできるように支援すると共にご自分では選ぶことの出来ない方には季節にあった服装を選ぶよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重症化に伴い一緒に料理をする事はほとんどないがお茶入れ・片付けなどはしていた。また、会話を楽しみながら食事が摂れるよう雰囲気作りに努めている	時間をかけてゆっくりと全員が自力で食べている。ミキサー食の方はいないが、季節の食材で手作りの料理が提供されており、おかゆにしたりおかずを適度な大きさにカットし調理されている。利用者の重度化も進みお手伝いできる方も少なくなってきたりゴマすりの鉢を押えるくらいの簡単な作業しか手伝えなくなっている。食べたい物を聞いても「なんでもいいよ」との返事が多いが、食事時には「おいしい！」との声を聴くこともあり調理担当者はその一言を喜びとしているという。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士はいないが訪問看護師とも相談しながら一人ひとりに合った食事、水分などに気をつけている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日食事の後には口腔ケアを行っている。週1回の義歯洗浄も行っている。義歯の不具合や口腔内の痛みのでた時は訪問歯科に診察して頂いている		

認知症高齢者グループホーム梨ノ木荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中・夜間を通してその人の排泄パターンを分析しトイレ誘導を行い失禁を減らし自尿を促しパットの使用量も減らせるよう努力している。	自立されている方もそうでない方も職員は時間や仕草を見ながら個々での対応をしている。リハビリパンツの方が半数以上おり、また、居室にポータブルを置いて使用される方、置いてあることで安心していただけるという方等、利用者に合わせ支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動は出来ないが医師・看護師と相談し内服薬や下剤で対応便秘にならないように気をつけ支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日の決めはあるが週2回の入浴を個々のペースに合わせた介助支援を行っている	週4日を入浴日としており、入浴日に希望すれば可能であるが、自ら要望する方は少ないという。車いすの方はシャワーチェアを使用しシャワー浴としており、1週間に2回を目安にしている。浴室内には手すりや腰掛などが用意され安全に入浴していただけるようになっている。入浴を嫌がっていた方からも入ると「気持ちいい」、「ありがとう」などの感想が聞けるという。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝食後の休息・午睡はできるだけ取っていただいている。夜間は眠剤なども本人の希望を聞き対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・看護師に相談指示を受けている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の残存機能に応じ家事等の手伝いを頼んだり趣味を生かして楽しんでいただいたり出きるだけ自由に過ごしていただけるような環境づくりをしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩のほか家族の協力を得てお花見や食事など外出の機会を作っている	現在、7名の利用者のうち、外出時の車いす対応の方が5名である。外の空気にふれることで気分転換が図れるように車いす対応の方も嫌がらない限り近所を散歩するようしている。家族と新幹線で旅行に行ったり市内の北向き観音へのお参りに行った方、職員と蓮の花見、カラオケ、回転寿司へ出向くなど、利用者の体調を見ながら無理のないように心掛け、少人数で回を重ねるなどの対応をとっている。	

認知症高齢者グループホーム梨ノ木荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は持っていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状などは出している。また来荘されない家族には電話で声を聞いていただく支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は古く、浴室トイレは狭い。居室によっては暗いが毎日多くの時間を過ごすホールは明るく暖かく楽しい空間であるよう努めている	食堂兼居間には新年(平成28年)の利用者の目標が張り出されている。目標にある「歩く」ということに合わせたのか、壁に貼られた模造紙の「行きたいところ」には「お花見、水仙、寿司、カレー、てんぷら、温泉」と掲げてあった。利用者の文化祭出品作品やレクリエーションで描いた塗り絵も玄関に飾られている。食堂は利用者と職員がコミュニケーションを取るのにほど良い広さとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	物理的には無理ではある。自分の席が一番落ち着くようである		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれ自由に部屋を飾っている。	アパート改修のホームの各居室はそれぞれ違った造りとなっている。ベッドと机、押し入れが備え付けられている。入り口に暖簾をかけている方、初夏なので電気が入ってない炬燵が置かれ生活の一部になっていたり、ひ孫が書いた絵が飾られた居室なども見られた。趣味の編み物の毛糸が置かれたり、絵を描くことが好きな利用者の居室にはアクリルクレヨンがすぐ使えるようになっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	つまづき転倒しないようバリアフリーにはなっている。2階の利用者さんはエレベーターを活用して安全の確保はされている。		